

大雨による利根川の増水を想定 実践さながらの水防演習

8月1日、須加小学校北側の利根川堤防で水防演習が実施されました。これは、集中豪雨や台風などの被害から地域住民を守り、かつ被害拡大を防ぐことを目的に、毎年行われているもので、今年は、消防団、水防員ら90人が参加しました。

大雨で利根川が増水したと想定し、木流しや五徳ぬい、月の輪など8種類の水防工法訓練のほか、県防災航空隊による救出救助訓練などが行われました。

今年も各地で大雨による被害がもたらされている中、参加した水防員らは、実践さながらの訓練に真剣な態度で取り組んでいました。



郷土の偉人を歩いて学ぶ歴史講座

埼玉公民館では市内歴史探訪として全5回の歴史講座を開いており、7月22日に第4回目の講座が行われました。これは、市制施行60周年記念事業の一つで、行田の歴史を見つめ直そうと「行田の偉人」を学習し、郷土愛をはぐむ取り組みとして行われています。

この日は、「行田の文学」として近世から近代の歌人・俳人を中心に、郷土にゆかりのある人物の建物や大長寺にある芭蕉句碑などを歩いて見学しました。

風情感じる昔の暮らしを体験

8月8日・9日の2日間、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークの主催による足袋蔵昔体験セミナーが忠次郎蔵で開催され、13人の子供たちが参加しました。

初日には夕食用のうどんを自分たちで打ち、花火やスイカ割り、蚊帳をつって寝るなど風情のある夏の夜を過ごしました。翌朝は、かまどでご飯を炊いたり、折り紙や水鉄砲を作って遊んだり、昔の人がどのような暮らしをしていたかを体験しました。



埼玉小学校に古代住居と古墳が出現

埼玉小学校で古代住居と古墳形の築山づくりが7月25日および8月1日に行われました。

児童・保護者をはじめ、中学生や地域住民など約150人がボランティアとして参加し、実物の2分の1のスケールで復元した古代住居と、国の実測図を基に縮尺し芝を張った築山を完成させました。埼玉地区の特色を生かし地域の人々に愛されるシンボルが出現し、古代のロマンを醸し出す校庭となりました。